

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：34314

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K13449

研究課題名（和文）近代日本の植民地における商工業者ネットワークの歴史地理学的研究

研究課題名（英文）A Historical Geography of the Network of Commerce and Industry in Modern Japanese Colonies

研究代表者

網島 聖（AMIJIMA, Takashi）

佛教大学・歴史学部・准教授

研究者番号：70760130

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：近代日本のいわゆる外地において形成された商工業者のネットワークの具体的解明は、日本の産業化とそれに伴う経済空間の再編を考える上で重要な検討課題といえる。本研究は、明治30年代から昭和10年代において、日本の売薬業が朝鮮半島と中国東北部（満州）への進出をどのように実行したのか分析し、そこで作り上げられた商工業者の関係性に注目して商工業者ネットワークの実態を解明した。その結果、流通業者を中心とする経済主体が分化する各地域をナショナルやグローバルな経済空間の中で具体的に結びつけていく過程を明らかにすることができた。また、業者による領域的な制度変更の志向の検討がさらに必要となることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は後発産業化国であった日本に特有の産業化の経緯を、植民地を含む領域の再編過程に注目して解明しようとするものである。その学術的意義は、産業化という歴史上の普遍的現象を経済主体と地域に注目して具体的に解明する点にある。それは日本の歴史的経験をイギリスの歴史地理学、経済史を中心に議論が進められてきた国際的な先行研究の成果に応答し、その知見を相対化することにもなる。以上の後発産業化国の開発に関わる本研究の視点は、現代の発展途上国における開発の問題やその実態に関する議論に地理学の立場から再検討をうながすものとなる。したがって、現在の社会、経済に関わる諸問題の解決に資するという社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：To understand the industrialization of modern Japan and the restructuring of its economic space, it is an important issue to elucidate the actual state of the networks of commerce and industry that were formed in the colonies. This study analyzed how the Japanese drug traders expanded into Korea and northeastern China (Manchuria) from the 1890s to the 1940s, and elucidated the actual state of the networks of pharmaceutical traders and merchants. As a result, this study was able to clarify the process by which economic entities, mainly distributors, specifically linked the differentiated regions within the national and global economic space at that time. It also indicated the importance of the system of territorial transactions and regulations that stand in front of the distributors.

研究分野：人文地理学

キーワード：産業化 地域形成 商工業者ネットワーク 同業組合 制度 植民地 医薬品

1. 研究開始当初の背景

近年の歴史地理学研究の進展は、産業化とそれに付随する現象により、近代には地域(ローカル) 国家(ナショナル)、世界(グローバル)といった様々な地理的スケールで経済空間の複雑な再編が起こったことを明らかにしてきた。すなわち、近代には、ナショナル、グローバルな経済空間がますます統合、均質化されていった一方で、固有の特徴を持ち、他地域と差別化される多様な地域が分化していくという一見矛盾する現象が確認された。さらに、産業革命を先駆的に達成したイギリスでは、理論、実証両面で研究が深化したことにより、今日ではこの2つのプロセスは決して相矛盾するものではなく、相互に作用して進展する関係にあったことも理解されており、分化する各地域を具体的に結びつけていく経済主体として、流通に関わる商工業者の活動や関係に注目する分析が行われている。

しかし、以上の議論は主にイギリスの事例を踏まえて構築されたものであり、その知見には後発産業化国である日本の文脈とは齟齬をきたす内容も数多くある。特に、イギリスと異なり、日本では商工業者が同業組合などのフォーマルかつ地域に密着した制度を用いて団体を形成し、それに依拠して他地域との取引関係を結んでいった事実がある。この点に着目して、申請者は大都市の商工業者が同業者町という地域に根を張った制度・組織・慣習を作り上げ、それに依拠して自地域内はもちろん、他地域の同業者とも継続的な関係を構築することで、結果的に全国的な商工業者ネットワークを生み出し、国内の経済空間を再編していたことを明らかにしてきた。

ただし、申請者のこれまでの研究は、内地のみをナショナルな空間スケールとして分析対象にしていた点で課題を残す。経済主体が連携して作り出す関係性は決して内地のみにとどまるものではなく、また、ナショナルな空間スケールも固定化されたものではなかったことが指摘されている。したがって、植民地として日本のナショナルな経済空間へ強制的に組み込まれたといわれる外地において、具体的にどのような商工業者のネットワークが形成されていたのかという問いは、後発産業化国・日本の産業化と経済空間の再編を考える上で必須の検討課題になる。また、この課題の検討は、上述したイギリスの先行研究を相対化し、再検証する上でも重要になる。

2. 研究の目的

以上の問題意識を踏まえ、本研究は、明治30年代～昭和10年代において、日本の売薬業が外地(朝鮮半島と関東州)への進出をどのように実行したのか分析し、そこで作り上げられた商工業者の関係性に注目することで商工業者ネットワークの実態を解明することを目的とした。売薬業を事例として取り上げたのは、内地における産地形成や流通の面で強い地域性を持つとともに、その営業に国家の規制が強く加えられたことから豊富かつ多面的な資料が残されていることによる。これにより、いかにして外地を近代日本のナショナルな経済空間に再編していったのかが明らかとなる。以上の目的を達成するため、以下3点の具体的課題を設定した。

(A)内地における売薬(配置薬)業の地場産業としての発展とその流通経路の進展がどのようにして外地にまで及んだのかを検証すること。

(B)外地の医薬品業者が内地における売薬業の産業集積地を含めて、どのような商工業者ネットワークを構築していたのか分析し、これらのネットワークが外地での医薬品産業の展開に果たした役割を解明すること。

(C)上記2課題の検討結果をイギリスの事例に基づいて進められている先行研究の知見と照らし合わせることで、後発産業化国である日本のナショナルな経済空間の再編が持った意義を明らかにし、本研究の成果を国際的に発信すること。

3. 研究の方法

上記3つの検討課題についてそれぞれの方法を示すと以下の通りになる。

(A) 日本国内(内地)における地場産業としての売薬業の発展とその外地への進出を検証

明治初期に輸入産業として導入された化学薬品産業の供給地は、大阪、東京の二大拠点にほぼ集中していた。しかしながら、医薬品の流通経路には化学薬品と在来の売薬(配置薬)が混在しており、後者の供給地はより多様な地域に分散していた。すなわち、分化する地域の特色として地場産業を重視する場合には、売薬生産地に対する分析が不可欠となる。そこで、国内各地の売薬産業集積地において、近代以降どのような商工業者ネットワークが形成されていたのかを明らかにした上で、外地への進出をどのように進めていたのか明らかにした。具体的には、まず『帝國薬業家銘鑑』などの医薬品業者に関わる商工名鑑類やすでに申請者が収集した業界紙などの史料から主要売薬業者のデータベース化を行い、売薬業者ネットワークの実態を明らかにする。続いて、明治期に大阪を中心に全国的な売薬業の任意組合を形成しようとした谷始太郎に関する資料調査を行うとともに、中富記念くすり博物館(佐賀県)、巻町郷土資料館(新潟県)といった売薬産業集積地にある資料館を実地に訪れ、地域の売薬業者団体が外地への進出に備えて行なった視察旅行や外地の業者との接触に関わる史料を調査、収集した。

(B) 外地の業者と日本国内(内地)の業者との結びつきを検討し、内地の医薬品産業集積地が外

地を含めた医薬品業者ネットワーク上でノードとして果たした役割を検証

外地で形成された日系売薬業者の団体や組織について分析する。具体的には、国立国会図書館で『在鮮日本人薬業回顧史』、『實際家の観たる今日之北支薬業』などの史料を分析し、当該期に外地に進出していた日系売薬業者のネットワークを再現する。さらに、国立国会図書館をはじめとする図書館、および古書で「艸藥新聞」、「薬石新報」、「薬業往来」、「満洲薬報」、「医薬工業満蒙時報」、「京城薬報」などの医薬品産業業界紙のバックナンバーを収集し、紙面に掲載された各地の売薬業者との交流に関わる記事を整理して、外地の日系売薬業者が内地の売薬産業集積地と結んだ関係を具体的に明らかにする。以上の作業により、売薬業者が外地を近代日本のナショナルな経済空間に再編していった過程を分析する。

(C) 以上の検討で得られた知見を後発産業化国のモデルとしてグローバルな産業化の歴史に位置付け、研究成果の国際発信を目指す

英語圏の歴史地理学、経済史研究における産業化と経済空間の再編に関わる研究を整理、展望するとともに、国際会議等に出席し各国の経済地理学研究者と学術的意見交換を行う。(A)、(B)のプロセスで得られた知見と比較検証することで、本研究の成果を後発産業化国のモデルとしてグローバルな産業化の歴史の中で適切に位置付け、その成果を国際会議で口頭発表する。

4. 研究成果

近代日本の外地において形成された日系商工業者(売薬業)のネットワークの様相を明らかにするため、以下では上記(A)～(C)の3課題ごとに本研究が得た知見の要点を整理する。

課題(A)について、明治前期における売薬業の任意団体である徳盛会の各地での結成と、売薬税廃税運動に対する大阪を中心とした全国ネットワークの形成について資料を収集するとともにデータベース化を進めた。さらに、2020年2月には新潟巻町をはじめとする具体的な売薬業産地での現地調査を敢行した。

しかし、2020年度からはコロナ禍の影響で出張を伴う遠方への調査を満足に行えない状況に陥り、主に国内の状況に関わる1の課題を中心に作業を進めるという計画の部分的修正を余儀なくされた。すなわち、国内で入手可能な資料収集の継続を優先するとともに、2019年度に解明が進んだ明治期における売薬業者の任意団体「徳盛会」の各地における結成と運営に関わる検討を集中して進めることとなった。その結果、大阪の売薬業者、谷始太郎、森平兵衛らを中心に「徳盛会」が形成されると共に、彼らを中心とした明治・大正期の組合結成活動の実態が一定程度明らかとなった。なお、この作業の途上で同業組合制度が持つ地域的な含意と、売薬業をはじめとする同業組合結成に制度的な保障が与えられなかったという、業種に特有の制度的問題が明らかとなった。この内容の一部については、国内学会(2020年経済地理学会大会)において口頭発表するとともに、査読付き学術誌(経済地理学年報66-4)に公表した。

課題(B)については、明治期における売薬業者を含む医薬品業者の電信ネットワーク形成を検証し、当時の一般的な都市システムと比較することでその特徴を明らかにした。この内容については国際学術誌(*Miscellanea Geographica* 23-3)に査読付き論文として公刊した。また、昭和前期における売薬業者を中心とする医薬品業者の中国華北地方への進出について資料を収集・分析し、日中の薬事制度が売薬業者ネットワークの形成に与えた影響を解明した。以上の内容は国内学会(2019年人文地理学会大会)において口頭発表した。

上述の通り、2020年度よりコロナ禍の影響で予定していた朝鮮半島、中国東北部での現地調査を断念せざるを得なくなった。そこで主に国内で入手できる資料の収集、分析製薬企業の社史記述により当時の状況を確認したのち、満洲薬剤師会会報「満洲薬報」昭和12年1月号から14年12月号の内容を分析し、1930年代後半から1940年代前半の満州に見られた中小零細規模の業者を含む日系医薬品業者の活動とそのネットワーク

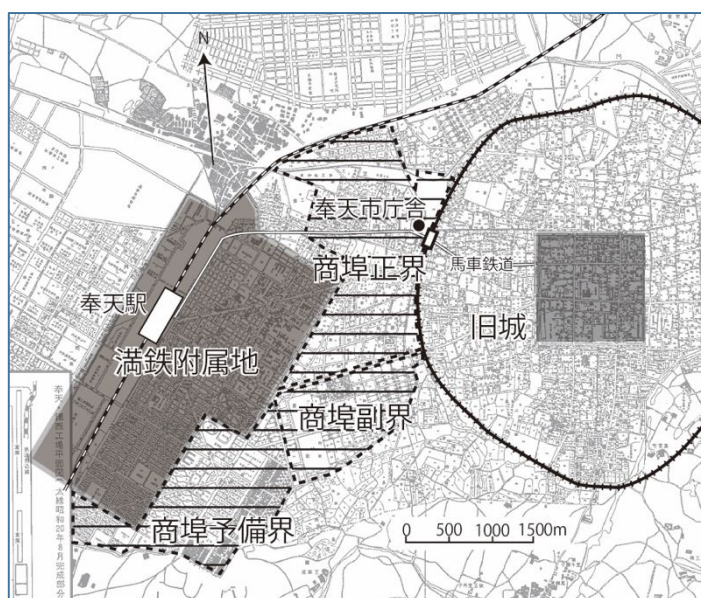


図1. 奉天市の地域区分と医薬品業者(昭和12年)

を解明、分析した。その結果、奉天市(現・瀋陽市)の例では、商埠、城内では主に中国人(満州人)薬舗が営業しており、その一方で日系業者の営業地はほぼ満鉄附屬地に限定されていること、また、商埠、城内の業者には中華民国が制定した中華薬典に基づく薬師がほとんどいないこ

となどが判明した。このように、業者が根拠地とする都市の特徴や同業者団体の性質により現地での営業形態や活動範囲の類型が異なることが示された。また、既存業者が権益擁護のため新規参入業者の制限を行おうとしたことや、現地で新規事業者を育成することによりもたらされる矛盾を域外の華北地域などに転じようとしていたことなども確認された。これらにより、進出する日系業者の権益擁護や取引制度確立、現地市場への参入の側面で都市地域がネットワーク形成の上で重要な役割を果たすとともに、これらの地域と重なって薬剤師、売薬業者に対する領域的制度が売薬業者の側から構想されたことも明らかとなった。

課題(C)については、研究期間全体を通じて明らかになった満州および華北地域への日系医薬品業者の進出とそのネットワークの実態についてまとめてオンラインの国際学術会議にて口頭発表し (The 34th International Geographical Congress) 国際的な開発経済の議論との接点を求める討論を行なった。この場では現代の開発経済の問題について歴史的視野からなされる本研究の成果がどのような示唆を与えうるのかについて意見交換を行なった。加えて、上述の通り、日本の薬品業者ネットワークの容態に関する都市システムの視点からの分析を国際学術誌 (*Miscellanea Geographica* 23-3) に発表した。これらに対して国内外の研究者より様々な示唆、交流をいただいた。

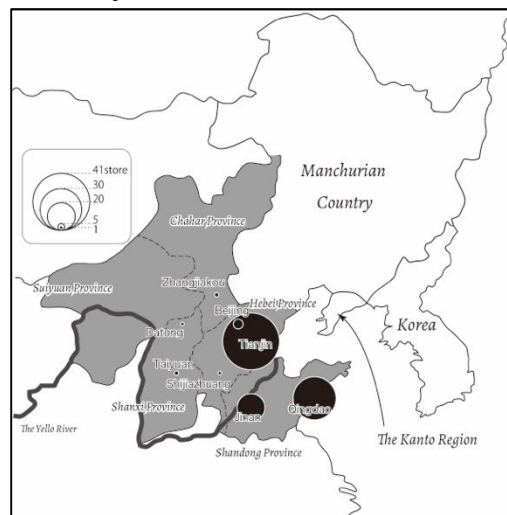


図2. 華北五省における日系薬品業者分布 (昭和13年)

以上より、近代日本の外地において形成された日系売薬業者のネットワークにおいては、進出時点で内地の産地や集散地で形成されたネットワークに一部依拠しつつも、進出先の主に都市を中心とした限られた領域の中に形成されたネットワークが進出済みの業者間を中心に強固に作られていたことが明らかとなった。これらにより、植民地への進出時に注目した産業化と地域形成の検討においては、業者の前に立ちはだかる領域的な取引や規制の制度が重要な意味を持っていることに注意し、進出した業者による領域的な制度改変への欲望やそれによる矛盾の解消といった側面の検討がさらに必要となることが示された。また、本研究はコロナ禍の影響により、国際的な調査、学術交流には大きな制限を加えられることとなった部分も存在する。これらの点については今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 網島 聖	4. 巻 66-4
2. 論文標題 近代日本の大都市における同業組合の制度と空間的スケール	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済地理学年報	6. 最初と最後の頁 263-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網島 聖	4. 巻 46
2. 論文標題 近代都市における同業者町の変遷--道修町の制度と主体--	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鷹陵史学	6. 最初と最後の頁 3-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Amijima	4. 巻 23-3
2. 論文標題 Telegraph communication networks used by the Japanese pharmaceutical industry in 1901	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Miscellanea Geographica: Regional Studies on Development	6. 最初と最後の頁 144-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2478/mgrsd-2019-0011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 網島 聖
2. 発表標題 近代日本の大都市における同業組合の制度と空間的スケール（共通論題シンポジウム「大都市における「街」の経済地理学」）
3. 学会等名 経済地理学会第67回大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 網島 聖
2. 発表標題 日中戦争期における日系薬品業者の華北進出と薬事制度
3. 学会等名 人文地理学会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 網島 聖
2. 発表標題 近代都市における同業者町の変遷 道修町の制度と主体
3. 学会等名 鷹陵史学会第28回年次研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi AMIJIMA
2. 発表標題 The Expansion of Japanese Pharmacies to North China under the Reorganization of Pharmaceutical Trade Institutions during the Sino-Japanese War (1937-1945)
3. 学会等名 The 34th International Geographical Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 網島 聖
2. 発表標題 日系薬品業者の満州進出と薬品取引に関する制度 満州国期の分析を中心に
3. 学会等名 人文地理学会2021年大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------